

日本学生氷上選手権スピードスケート競技

総合優勝 3年ぶり16回目

日本学生氷上選手権のスピードスケート競技が1月5日から7日まで、北海道釧路市の柳町スピードスケート場で行われた。専大は森重航(経営1・山形中央高)、堀川翼(経営1・白樺学園高)の1年次生コンビの活躍もあり、学校対抗得点で日大に37秒の大差をつけて、3年ぶり16回目の総合優勝を飾った。

堀川翼、森重が堂々の滑り

大会初日の男子500メートルレースに入ること、2位に入った森重は最後のコーナーでスピードを伸ばすことができた。最初の100メートルを上げる展開がうまく

「できた」と自身のレースに好感触を感じていた。堀川は初日の1500メートルで3位に入賞するも「1000メートル以降でタイムを伸ばすことができなかった」と自身のレースに好感触を感じていた。堀川は初日の1500メートルで3位、岩佐理史(経営2・帯広南高)が1000メートルで5位、堀川大地(経営2・白樺学園高)が同6位、高見澤光希(経営2・小海高)が1500メートルで4位入賞。唯一の4年次生としてここまでチームを引っ張ってきた嶋田英爾(経営4・白樺学園高)を中心に、強い団結力で、多くの選手がポイントを積み上げていった。最終日に行われた2000メートル(石川、嶋田、岩佐、森重)で1位となり、総合優勝が確定すると、部員たちは喜びを爆発させた。

2回戦敗退 アイスホッケー

日本学生氷上選手権アイスホッケー競技(12月25、29日、釧路市)は、トナメント初戦で石崎達也(商3・北海道滝本英士(法2・軽井沢高)の2得点などで龍谷大に7-1で快勝。しかし、続く2回戦で中央大に敗れ、ベスト16に終わった。



前嶋監督(前列中央)を中心に優勝を喜ぶ部員たち



軽やかな滑りを見せる堀川翼

バスケットボール部の盛實海翔(商4・能代工高)が特別指定選手として所属するサンロッカーズ渋谷が天皇杯全日本選手権の頂点に立ち、日本一に輝いた。盛實はファイナルラウンド(1月9、12日、埼玉県・さいたまスーパーアリーナ)の3試合全てで10分以上のプレータイムを記録。準決勝の滋賀レイクスターズ戦では精度の高いシュートで13得点を挙げ

バスケットボール SR渋谷 盛實 天皇杯制覇に貢献

けるなど、得点やアシストで優勝に貢献した。大会を終え、「個人的には課題が多くまだまだだったが、チームとして結果を残すことができて本当に良かった」と喜んだ。プロの世界でも大きな存在感を放つ盛實。「ずっと大切にしている『楽しむプレー』をして、プロという高いレベルの中でも自分らしさを見せたい」と話した。(岡本真凜・経営2)

◆ 主な進路先 ◆

Table with 4 columns: Department (部活), Name (名前), School (学部・出身高校), and Career Path (進路先). Rows include Soccer, Basketball, Volleyball, Rugby, and Wrestling.

次のステージへ羽ばたけ

大学での競技生活を終え、今年も多くの学生がプロや社会人チームに進む。専修大学体育会から次のステージに羽ばたく主な選手を写真、コメントとともに紹介する。



樋口健太

今後は社会人として仕事とバスケットボールの両立がより大変になると思うが、好きなことを続けられることに感謝して頑張りたい



石田楽人

大学4年間で学んだことを生かし、1年目から試合に出られるように全力で頑張りたい



柏田樹

プロリーグで試合ができることに感謝し、チームの勝利に貢献できるよう、日々精進していく



松雪泰成

2024年のパリオリンピック出場を目指す



氣田亮真

熱い思いのこもったプレーでサポーターに、夢や感動を与えたい。チームのために全力でプレーするとともに、自分の夢に向かって努力していく。応援よろしくお祈いします